

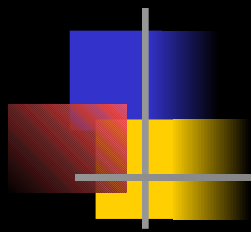


一般身障部門活動報告

(有)在宅支援チーム フォーレスト

作業療法士:遠藤美代子

大谷芙美子



I . ニーズ分類



ニーズ分類

【 構築期 】

- I-a 在宅生活移行支援
- I-b 在宅生活再構築支援
- I-c 介護予防型支援

【 保障期 】

- II-d 障害悪化リスク支援
- II-e リハマネジメント支援
- II-f 安定化終了支援

【 その他 】

- III-g 進行疾患型支援
- III-h 発達障害型支援
- IV-I その他



訪問・通所の利用者ニーズ

1. これまで多かったニーズ

介護予防型支援

在宅生活移行支援

在宅生活再構築支援

2. 少しずつ増えているニーズ

進行疾患型支援

高次脳機能障害

職業復帰



Ⅱ. 利用者層と関わり



介護予防型支援

- 介護度：要支援1、2
- ADL自立
- 外来打ち切りケース
- 通常の通所サービスの利用は拒否



- メンテナンスや筋力トレーニング中心
- サテライトへ移行したケースが多い

在宅生活移行支援 在宅生活再構築支援

- 介護度：要介護3～5
- ADL：一部介助
- 病院退院直後・在宅生活継続

訪問

- 環境設定
- 動作練習
(トイレ・入浴・食事)
- IADL練習

サテライト

- 上肢機能訓練
- 利き手交換練習
- IADL練習



進行疾患型支援

- 介護度：要介護5が多い
- ADL：ほぼ全介助
(ベッド上寝たきり・車椅子レベル)



- 全身的なメンテナンス
- 症状進行に合わせた環境設定・介護手法検討
- 残存能力に合わせた動作獲得



高次脳機能障害

- 介護度：1～3（医療保険も多い）
- 疾患：脳卒中・頭部外傷
- ADL：見守り・声掛け
- 病院退院直後（在宅生活移行支援後）



- 症状に応じた環境設定・動作練習
- 生活上の相談（本人・家族）
- メンテナンス



職業復帰

- 介護度:さまざま
- ADL:ほぼ自立
- 年齢的に若い方が多い



- 運転についての相談(他利用者含む)
- パソコンスキルの獲得



Ⅲ. 見えてきた問題と 今後の方向性



介護予防・機能向上

【問題点】

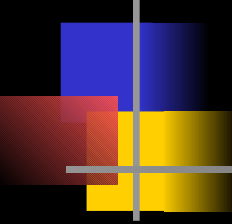
- 単調な機能訓練で終わる
- 活動の幅が広がらない
- 自宅内の活動では心身ともに不十分。
しかし受け皿がない



介護予防・機能向上

【解決策・今後の方向性】

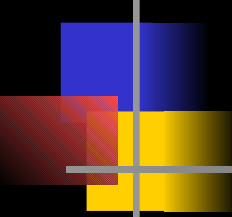
- 活動の幅を広げる方法を知る
- 活動の幅を広げる手段の一つとして、サテライトや他通所サービスへの利用を検討



在宅生活移行支援 在宅生活再構築支援

【問題点】

- 評価・アプローチが短期間で進められない
- アプローチのソフトが少ない



在宅生活移行支援 在宅生活再構築支援

【解決策と今後の方向性】

- 疾患ごとの評価や環境設定・動作方法をまとめていく
- 様々な介護手法を知る（勉強会などを通しての情報交換）
- 生活が落ち着き次第、ADL練習や社会参加を目的にサテライトへの移行を念頭において勧めていく



進行疾患型支援

【問題点】

- 疾患の理解不足
- 各コミュニケーションエイド・残存機能を活用したADL方法の知識不足
- **まだまだまだまだ未熟・・・**



進行疾患型支援

【解決策と今後の方向性】

- 進行疾患に対するOTとは何なのかを定義づけ
- 疾患に関する知識を深める・リスク管理



高次脳機能障害

【問題点】

- 疾患の理解不足
- アプローチソフトの不足
- 時間がかかる



高次脳機能障害

【解決策と今後の方向性】

- 高次脳機能障害に対するOTの見識を深める
- それぞれの症状に対してのソフトの充足
- 必要に応じた時間枠の検討



職業復帰

【問題点】

- ニーズの把握方法不足
- アプローチ方法不足
- 相談しやすい環境設定が行えていない



職業復帰

【解決策と今後の方向性】

- 相談しやすい環境設定（各サテライト）
⇒ 時間帯や場所の検討
- ニーズの把握～アプローチ方法のマニュアル作成



まとめ・・・訪問では

- 利用者層⇒『介護予防型支援』『在宅生活移行支援』『在宅生活再構築支援』
- ADLの環境設定・動作練習
- 難病・高次機能障害の環境設定・動作練習は訪問OTの必要性高く、専門性が発揮できる
- 反復動作練習や活動の拡大は、訪問よりもサテライトに移行したほうが、効果的なケースが多い



まとめ・・・サテライトでは

- サテライトでは、ニーズが幅広く、ソフトが足りない
- 特に『ADL(IADL)練習』『職業復帰』『高次脳機能障害』の3領域では、特にソフトの充実と個別的ななかかわりが必要になってくる



身障OTのまとめ

- 訪問・サテライトでは関わる利用者層やニーズのプローチも変わってくる
- それぞれの場所でのOTの役割が見えてきた
- どの時期にどこで関わるのが効果的か、ニーズに即したアプローチを実施していく
- ソフトの充足を図る

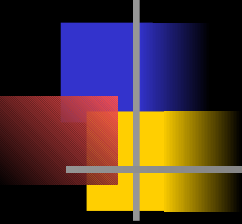


最後に・・・相談訪問

- 介護度・疾患・依頼先もさまざま
- 内容:『入浴』『食事』『シートニング』『自助具作成』⇒工房オアシスとの連動

【実施して】

- OTの専門性を発揮できる場でスキルを深められた
- 他職種・他事業所との関わりを持てた



関わりを大切にしたいから・・・
お役にたてることがあるかも・・・

声をかけてください♪